

主専攻開講授業科目及び授業担当教員一覧

区分	授 業 科 目	年 次	単位数		担 当 教 員 名
			講義	演習	
共通科目	特別研究（研究計画立案）	1・2		2	高橋永子、坂本雅代、栗原幸男、溝渕俊二、池内和代、森木妙子、石上悦子、山脇京子、大井美紀、松岡真里、藤田晶子、齋藤美和、濱田佳代子、青木早苗、小松輝子、高橋美美、杉本加代、吉村澄佳、岡田久子
	特別研究（実験・調査）	1・2		2	〃
	特別研究（ゼミナール）	1・2		2	〃
	特別研究（論文作成）	1・2		2	〃
	特別研究（研究発表）	1・2		2	〃
	課題研究	1・2		6	〃
	健康情報論 ※1	1・2	2		栗原幸男
	保健統計論 ※1	1・2	2		奥谷文乃
	健康環境論 ※1	1・2	2		奥谷文乃
	看護研究論 ※1	1	2		坂本雅代、大井美紀、濱田佳代子
	看護理論 ※1	1	2		高橋永子、山脇京子、寺下憲一郎
	看護倫理 ※1	1	2		森木妙子、下田真梨子
	ペアレンティング学 ※1	1・2	2		池内和代、松岡真里
	看護英語 ※1	1・2	2		植田啄佐(非)
看護政策論	1・2	2		高橋永子、池内和代	
病態生理学	1・2	2		溝渕俊二、青木早苗	
看護教育・看護管理学分野科目	看護教育・管理学特論Ⅰ	1・2	2		坂本雅代、山脇京子、岡田久子
	看護教育・管理学特論Ⅱ	1・2	2		池内和代、森木妙子、下田真梨子
	看護教育・管理学演習	1・2		2	坂本雅代、山脇京子、森木妙子
	保健医療情報学演習	1・2		2	栗原幸男
成人・老人看護学分野科目	成人・老人看護学特論Ⅰ	1・2	2		高橋永子、溝渕俊二、山脇京子、青木早苗、林 昌子、寺下憲一郎
	成人・老人看護学特論Ⅱ	1・2	2		藤田晶子、大井美紀、齋藤美和、杉本加代
	成人・老人看護学演習	1・2		4	高橋永子、山脇京子、大井美紀、藤田晶子、齋藤美和、青木早苗、杉本加代、高橋美美
母子看護学分野科目	母子看護学特論Ⅰ	1・2	2		(母性看護)池内和代、石上悦子、濱田佳代子、小松輝子、吉村澄佳 (小児看護)松岡真里
	母子看護学特論Ⅱ	1・2	2		(母性看護)池内和代、植田啄佐(非) (小児看護)松岡真里
	母子看護学演習	1・2		4	(母性看護)池内和代、石上悦子、濱田佳代子、小松輝子、吉村澄佳 (小児看護)松岡真里

基礎助産学 科目	ペアレンティング学 ※2	1・2	2		
	母子看護学特論Ⅰ ※2	1・2	2		
	母子看護学特論Ⅱ ※2	1・2	2		
	助産学特論	1	1		<u>池内和代</u> 、小松輝子
	ウイメンズヘルス論	1	1		<u>濱田佳代子</u>
助産学実践 科目	助産診断・技術学基礎	1	1		溝渕俊二、 <u>池内和代</u>
	助産診断・技術学特論Ⅰ	1	1		<u>池内和代</u> 、石上悦子、杉本加代
	助産診断・技術学特論Ⅱ	1	1		松岡真里、 <u>小松輝子</u> 、吉村澄佳
	助産診断・技術学演習	1		3	池内和代、石上悦子、 <u>小松輝子</u> 、濱田佳代子、青木早苗
	周産期ハイリスク論	1	1		池内和代、 <u>石上悦子</u> 、小松輝子
	周産期医療システム論	1	1		栗原幸男、奥谷文乃、 <u>石上悦子</u>
	母子精神病理学	1	1		<u>小松輝子</u>
	コンサルテーション論	1	1		<u>石上悦子</u>
	助産学実習Ⅰ ※3	1		2	池内和代、石上悦子、 <u>小松輝子</u> 、濱田佳代子
	助産学実習Ⅱ ※3	2		7	池内和代、 <u>石上悦子</u> 、小松輝子、濱田佳代子
	地域助産学実習	2		4	<u>池内和代</u> 、石上悦子、小松輝子、濱田佳代子
助産学関連 科目	地域母子保健診断学	1	1		池内和代、 <u>石上悦子</u> 、大井美紀
	助産管理学	1	2		<u>池内和代</u> 、高橋永子

特別研究（計10単位）または課題研究のいずれかを選択する。

※1は、開放科目（他専攻学生の履修を認める科目）

※2は、他区分との重複科目

※3は、男子の履修不可

二重線：当該授業の担当主任教員

※ 時限について

1時限	8：50～10：20
2時限	10：30～12：00
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00
6時限	18：10～19：40
7時限	19：50～21：20

## 特 別 研 究

### 到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

### 特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

### 特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に実施する中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

### 特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

### 特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

### 特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

## 課 題 研 究

### 到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探求し、教員の指導のもとに論文を作成する。

### 課題研究（研究計画立案） 2単位

- ・ 課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる
- ・ テーマに関する文献検索し、研究課題を位置づけられる
- ・ 研究テーマに適した研究方法を選択できる
- ・ 配慮すべき倫理的な事項を列挙できる
- ・ 研究計画書を決められた形式で作成できる

### 課題研究（調査・ゼミナール） 2単位

- ・ 研究計画書にそって具体的の実験・調査を設定できる
- ・ 研究の信頼性・妥当性を確保するための事項を理解している
- ・ 実験・調査のデータ分析が適切に行える
- ・ 研究の問題・課題を他者と議論し深められる
- ・ ゼミナールで他者の意見を参考に研究方法などの改善ができる

### 課題研究（論文作成・発表） 2単位

- ・ 基本的な論文構成（緒言、研究方法、結果、考察、結語、引用文献）に従って論文を作成できる
- ・ 論理的で一貫性がある論文を作成できる
- ・ 倫理的に配慮した記述ができる
- ・ 発表要旨や抄録を作成できる
- ・ 研究内容をわかりやすく発表できる
- ・ 質問に対して適切な回答をすることができる

授業コード	16701	授業科目名	健康情報論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○栗原 幸男 (基礎看護学講座) (880-2524, kurihary@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前に予約をとること。						
学生の相談場所	保健医療情報学教室						
履修希望学生に求めるもの	保健・医療情報の活用に意識的に関心を持つこと						
キーワード	保健医療情報学、ICT活用、情報化						
科目の目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関わる情報の特性を理解する。</li> <li>・健康支援に必要な保健・医療の情報化を理解する。</li> <li>・保健・医療における情報化の状況を理解する。</li> <li>・健康支援のための保健・医療情報の活用の視点を理解する。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 各自ノートPCのネットワーク接続設定 (各自ノートPCを持参すること)</li> <li>2. 健康に関わる情報の特性</li> <li>3. 健康支援に必要な保健・医療のICT活用</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 保健・医療における情報化の変遷</li> <li>6. 同上</li> <li>7-14. 保健・医療におけるICT活用に関する各自の関心テーマについての発表と 討論</li> <li>15. 健康情報論を考える (まとめ)</li> </ol>						
成績評価方法	各自の発表と討論への寄与度で評価する。						
教科書・参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah and etc. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.</li> <li>2. 日本医療情報学会医療情報技師部会. 医療情報第2版 医療情報システム編. 篠原出版新社.</li> <li>3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.</li> </ol>						
履修上の注意	毎回の授業参加が成績評価になって行くので、出席に努めること。						

授業コード	16702	授業科目名	保健統計論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○奥谷 文乃 (地域看護学講座) (880-2560, okutanif@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	アポイントメントがあれば、いつでも可						
学生の相談場所	看護学科4階 教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	ノートパソコンの基本的な操作に慣れておくこと						
キーワード	量的研究、データ解析、有意差						
科目の目標 (到達目標)	1. 看護研究で用いられる基本的な統計処理方法を理解する 2. データの種類に応じて適切な統計処理方法を決定できる 3. 看護研究論文を読んで実際に使われている統計処理方法から内容を正しく理解する						
授業計画	1. 10月 5日 (月) 6限 統計処理方法の種類 2. 10月 5日 (月) 7限 代表値の種類と正規分布 3. 10月19日 (月) 6限 Excelの基本的操作方法 4. 10月19日 (月) 7限 比の検定法— $\chi^2$ 検定 5. 10月26日 (月) 6限 平均の検定法—ANOVA 6. 10月26日 (月) 7限 平均の検定法—t検定 7. 11月 2日 (月) 6限 看護研究論文の選択I 8. 11月 2日 (月) 7限 看護研究論文の選択II 9. 11月 9日 (月) 6限 ノンパラメトリック手法—Mann-Whitney U テスト 10. 11月 9日 (月) 7限 ノンパラメトリック手法—Wilcoxon符号順位検定 11. 11月16日 (月) 6限 ヒストグラムの書き方 12. 11月16日 (月) 7限 Kolmogorov-Smirnov検定 13. 11月30日 (月) 6限 看護研究論文における統計手法の実際I 14. 11月30日 (月) 7限 看護研究論文における統計手法の実際II 15. 12月 7日 (月) 6限 看護研究論文における統計手法の実際III						
成績評価方法	実際に統計処理がなされている看護研究論文のプレゼンテーションによる						
教科書・参考図書	適宜指定する						
履修上の注意	Microsoft Officeがインストールされたノートパソコンが必携						

授業コード	16703	授業科目名	健康環境論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○奥谷 文乃（地域看護学講座）（880-2560, okutanif@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	アポイントメントがあれば、いつでも可						
学生の相談場所	看護学科4階 教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	臨床の現場で感じた疑問を大切にすること						
キーワード	生理学、ホメオスタシス、病態生理						
科目の目標（到達目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホメオスタシスの概念を理解する</li> <li>2. 生体の二大調節系である、内分泌性および神経性調節機構を理解する</li> <li>3. 環境の変化を察知する感覚機能を理解する</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 12月 7日（月）7限 ホメオスタシスとは</li> <li>2. 12月14日（月）6限 生体の二大調節系について</li> <li>3. 12月14日（月）7限 神経細胞の基本的機能と神経系の解剖</li> <li>4. 12月21日（月）6限 自律神経性調節Ⅰ</li> <li>5. 12月21日（月）7限 自律神経性調節Ⅱ</li> <li>6. 1月18日（月）6限 自律神経性調節Ⅲ</li> <li>7. 1月18日（月）7限 内分泌調節Ⅰ</li> <li>8. 1月25日（月）6限 内分泌調節Ⅱ</li> <li>9. 1月25日（月）7限 内分泌調節Ⅲ</li> <li>10. 2月 1日（月）6限 内分泌調節Ⅳ</li> <li>11. 2月 1日（月）7限 酸塩基平衡</li> <li>12. 2月 8日（月）6限 感覚機能Ⅰ</li> <li>13. 2月 8日（月）7限 感覚機能Ⅱ</li> <li>14. 2月15日（月）6限 感覚機能Ⅲ</li> <li>15. 2月15日（月）7限 感覚機能Ⅳ</li> </ol>						
成績評価方法	レポート						
教科書・参考図書	これまでに用いた生理学の教科書						
履修上の注意	ノートをとることが多いので、筆記用具を持参すること						

授業コード	16704	授業科目名	看護研究論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○坂本雅代（基礎看護学講座 088-880-2532. msakamoto@kochi-u.ac.jp） 大井美紀（臨床看護学講座 088-880-2554. mikioi@kochi-u.ac.jp） 濱田佳代子（臨床看護学講座 088-880-2757. kayoko-h@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	坂本（水曜日6限目）大井・濱田（木曜日6限目）（事前予約要）						
学生の相談場所	坂本（3階坂本研究室）大井（6階大井研究室）濱田（5階濱田研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、更によりよい実践へと発展できるように、課題意識をもつこと。また、文献の活用や論文クリティークなど、研究への関心を高めておくこと。						
キーワード	看護研究、研究倫理、研究計画、研究方法、批判的吟味						
科目の目標（到達目標）	1. 看護における研究の意義や役割、研究倫理について理解できる 2. 研究論文のクリティーク等を通して、各自の研究に必要な研究枠組みや研究方法、研究計画から論文作成までの研究概要について理解できる						
授業計画	1. 看護研究の意義と役割 2. 看護研究の動向と倫理 3. 研究課題と文献検討 4. 研究デザイン・研究方法概要 5. 量的研究（1）実験（介入）研究の方法 6. 量的研究（2）調査研究の基礎 7. 質的研究（1）質的研究の基礎 8. 質的研究（2）質的データ分析の実際 9. 看護論文査読（1）研究論文の読み方Ⅰ 10. 看護論文査読（2）研究論文の読み方Ⅱ 11. 看護論文査読（3）研究論文の読み方Ⅲ 12. 研究計画プレゼンテーション（1） 13. 研究計画プレゼンテーション（2） 14. 研究計画プレゼンテーション（3） 15. 研究計画プレゼンテーション（4）						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する11						
教科書・参考図書	講義において適宜紹介する						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						



授業コード	16705	授業科目名	看護理論			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○高橋 永子 (臨床看護学講座) (880-2519, takahase@kochi-u.ac.jp) 山脇 京子 (臨床看護学講座) (880-2531, y-kyou@kochi-u.ac.jp) 寺下 憲一郎 (臨床看護学講座) (880-2436, k-terashita@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日6限 (事前連絡要)						
学生の相談場所	成人看護学 (7階) 共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	学びを臨床現場や教育・研究に活用できるように理解を深めてください。						
キーワード	看護理論、哲学、大理論、中範囲理論						
科目の目標 (到達目標)	1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。 2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用法について説明できる。 3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 看護理論の発展、実践・教育・研究における看護理論の重要性 3. 看護理論の分類 (大理論・中範囲理論・実践理論) 4. 看護理論分析 (1) discussion 5. 看護理論分析 (2) discussion 6. 看護理論分析 (3) discussion 7. クリティーク (1) discussion 8. クリティーク (2) discussion 9. クリティーク (3) discussion 10. 看護実践の理論への適用 (1) 哲学 presentation、discussion 11. 看護実践の理論への適用 (2) 大理論 presentation、discussion 12. 看護実践の理論への適用 (3) 中範囲理論 presentation、discussion 13. 看護実践の理論への適用 (4) 中範囲理論 presentation、discussion 14. 看護実践の理論への適用 (5) 中範囲理論 presentation、discussion 15. まとめ						
成績評価方法	授業・ディスカッションへの参加状況とプレゼンテーション、レポートにより総合的に評価する						
教科書・参考図書	使用教科書 1. Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳: Nursing Theorists And Their Work 看護理論家とその業績第3版、医学書院、2004. 参考書 1. Julia B. George 南裕子他訳: NURSING THEORIES TheBase for Professional Nursing Practice 看護理論集 日本看護協会出版会、2003.						
履修上の注意	ディスカッションが深まるよう、プレゼンテーションの理論について理解して授業に臨んでください。						

授業コード	16706	授業科目名	看護倫理			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○森木 妙子 (基礎看護学講座) (088-880-2558, morikita@kochi-u.ac.jp) 下田真梨子 (基礎看護学講座)						
オフィスアワー	水・木						
学生の相談場所	森木研究室						
履修希望学生に求めるもの	倫理分析ができる						
キーワード	倫理的ジレンマ、倫理指針、倫理分析、研究の倫理						
科目の目標 (到達目標)	1. 看護職者の実践活動に活かすための、看護倫理をめぐる議論と看護に関連する倫理綱領／規定並びに倫理分析の手法に関する知識を修得する。 2. 看護研究に関する倫理の重要性を理解し、原則に従って配慮できる能力を身につける。						
授業計画	1. 生命倫理と看護倫理 2. 倫理が問われ始めた歴史的背景 3. 臨床における身近な倫理的問題 4. 倫理原則 5. 倫理分析の手法 (1) 6. 倫理分析の手法 (2) 7. 身近な倫理的問題の分析の実際 (1) 8. 身近な倫理的問題の分析の実際 (2) 9. 身近な倫理的問題の分析の実際 (3) 10. 看護研究の倫理 (1) 倫理審査体制と倫理審査を受ける立場と行う立場 11. 看護研究の倫理 (2) 倫理指針、行動規範 12. 看護研究の倫理 (3) 看護者の倫理綱領 13. 看護研究の倫理 (4) ミスコンダクトとその防止 14. 看護研究の倫理 (5) 研究のプロセスにおける倫理 15. 看護研究の倫理 (6) 発表の倫理						
成績評価方法	クラスへの参加と貢献度、プレゼンテーション、レポート課題						
教科書 1) 参考図書 2) ~ 7)	1. 橋本和子：これからの看護倫理学、ふくろう出版、2014 2. 赤林朗他：臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ、新興医学出版社、2006. 3. 宮坂道夫：医学倫理の方法－原則、手法、ナラティブ、医学書院、2011. 4. サラT.フライ著、片田範子、山本あい子訳：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド、日本看護協会出版会、2002. 5. シーア・コルボーン他著、長尾力訳：奪われし未来、翔泳社、2004. 6. 杉谷藤子他：ケアを深める看護倫理の事例検討、日本看護協会出版会、2011. 7. 玉腰暁子他：医療現場における調査研究倫理ハンドブック、医学書院、2011.						
履修上の注意							

授業コード	16707	授業科目名	ペアレンティング学			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・6
担当教員	○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523 kazuyo@kochi-u.ac.jp 松岡真里（臨床看護学講座）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp （植田味佐）						
オフィスアワー	金曜日5時間目 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	看護学科5階 池内研究室および松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	ゼミ形式での授業を展開するため、文献を読み知識を得ると同時に、自身の体験している実践上の課題を分析し、まとめ、他者に伝える力が求められます。						
キーワード	親子、家族理論、育児、ペアレンティング						
科目の目標（到達目標）	<p>【目的】</p> <p>1) 人のライフサイクルのなかで、「親」そして、「家族」になる過程にある人を理解し支える上で役立つ諸理論及び家族看護学を学ぶ。</p> <p>2) 子どもの命が尊重され、一人の人として健やかに育つ社会を育成するために現代の諸問題および次世代育成や家族支援の方法を理解し、「Parenting」とは何かを追究する。</p>						
授業計画	<p>1 授業の概要説明：人間のライフサイクルにおける「親になる」過程にある人を支える母子看護の役割の検討</p> <p>2-3 現在の「子ども」「親」「祖父母」世代を取り巻く社会環境の変容と課題</p> <p>4-5 家族看護学に関連する諸理論の理解とその活用① 家族発達理論と家族役割に関する理論</p> <p>6-7 家族看護学に関連する諸理論の理解とその活用② 家族ストレス理論と家族システム理論</p> <p>8-9 「親になる」過程にある人を支える看護の役割① 学童期、思春期にある対象の理解と求められる支援と課題</p> <p>10-11 「親になる」過程にある人を支える看護の役割② 妊娠期、産褥期、子育て期にある対象の理解と求められる支援と課題</p> <p>12-13 それぞれが考える「Parenting：ペアレンティング」とそれを支える看護の役割①</p> <p>14-15 それぞれが考える「Parenting：ペアレンティング」とそれを支える看護の役割②</p>						
成績評価方法	授業への出席、学習内容、プレゼンテーション等によって総合的に評価する						
教科書・参考図書	<p>【参考図書】</p> <p>C Betz, M Hunsberger, S Wright:Family-Centered Nursing Care of Children 2nd. Ed.</p> <p>W Votroubek &amp; A Tabacco:Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd. ED.</p> <p>ジョイ・ベルスキー、ジョン・ケリー著、安次嶺佳子訳：子どもをもつと夫婦に何が起るか</p> <p>C. コーワン、P. コーワン著、山田昌弘訳：カップルが親になるとき</p> <p>鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第3版</p> <p>上田礼子：生涯人間発達学 改定第2版増補版</p> <p>野嶋佐由美：家族看護</p>						
履修上の注意	第一回目の日程及びその後の詳細な日程は、後日提示します。						

授業コード	16708	授業科目名	看護英語			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・6
担当教員	○印は担当責任者 ○植田 味佐						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科等5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	医療及び看護用語・グローバルな視点						
科目の目標 (到達目標)	看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。						
授業計画	1-15 Developments in the world  *平成27年10月6日(火)～平成28年2月2日(火)までの15回を予定						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 等による評価						
教科書・参考図書	教科書及び参考書等 1) <a href="http://www.voanews.com/specialenglish/">www.voanews.com/specialenglish/</a> 2) Longman Dictionary of Contemporary English						
履修上の注意							

授業コード	16709	授業科目名	看護政策論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○高橋 永子 (臨床看護学講座) (088-880-2519, takahase@kochi-u.ac.jp) 池内 和代 (基礎看護学講座) (088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟7階 成人共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	看護政策 プロポーザル						
科目の目標 (到達目標)	1. 最新の医療、看護、福祉の政策的動向について理解する。 2. 看護現場における看護政策上の諸問題について抽出し、その政策上の問題解決のためにエビデンスに基づいた提言案を作成し説明できる。 3. 看護専門職として専門能力を発揮し、責務を果たすために政策策定に参加することの意義を理解する。						
授業計画	看護の質の向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけに必要な知識を教授する。  1. 10月6日(火) 授業の概要・オリエンテーション 政策とは何か 2. 10月13日(火) 最新の医療、看護、福祉の政策的動向 3. 10月20日(火) 看護制度と政策決定過程 ―立法のしくみ― 4. 10月27日(火) 看護の人材育成 5. 11月10日(火) 看護の人材確保 6. 11月17日(火) 個人ワークの進め方、 「看護現場における看護政策上の諸問題」プロポーザル 7. 11月24日(火) 個人ワーク 8. 12月1日(火) 個人ワーク 9. 12月8日(火) 個人ワーク 10. 12月15日(火) プレゼンテーション(中間) 11. 12月22日(火) 個人ワーク 12. 1月12日(火) 個人ワーク 13. 1月19日(火) プレゼンテーション・ディスカッション 14. 1月26日(火) プレゼンテーション・ディスカッション 15. 2月2日(火) 総括						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 課題レポート等による評価						
教科書・参考図書	参考書 1. 井部俊子他: 看護管理学習テキスト 第2版 看護制度・政策論、日本看護協会出版会、2011. 2. 見藤隆子他: 看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2017.						
履修上の注意	特になし						

授業コード	16710	授業科目名	病態生理学			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・6
担当教員	○印は担当責任者 ○溝渕 俊二 (臨床看護学講座) (Email: mizoshun@kochi-u.ac.jp) 青木 早苗 (臨床看護学講座) (Email: saoki@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー							
学生の相談場所	看護学科棟7階奥から2番目溝渕教員室、4番目青木教員室						
履修希望学生に求めるもの	特になし						
キーワード	解剖学、生理学、病態学、看護実践						
科目の目標 (到達目標)	科目の目標： 主要な症候の病態生理を学習し、患者の病態生理を踏まえた上で、高度な看護実践ができるための基礎的能力を養う。 到達目標： 1. 主たる症候の病態生理が理解できる。 2. 学習内容を活用して、事例の病態関連図を作成し、説明できる。 3. 事例について病態を踏まえた看護援助の方向性が説明できる。						
授業計画	1. 呼吸障害 (担当教員 溝渕) 2. 呼吸不全と呼吸管理 (担当教員 溝渕) 3. 循環障害 (担当教員 溝渕) 4. 循環器疾患の病態と管理 (担当教員 溝渕) 5. 心不全の病態と管理 (担当教員 溝渕) 6. 代謝・内分泌障害 (担当教員 溝渕) 7. 消化器・肝機能障害 (担当教員 溝渕) 8. 栄養管理 (担当教員 溝渕) 9. 体液不均衡 (担当教員 溝渕) 10. 感染・炎症 (担当教員 溝渕) 11. 血液疾患の病態と管理 (担当教員 溝渕) 12. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 13. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 14. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 15. 事例展開 (発表) (担当教員 青木・溝渕)						
成績評価方法	出席、プレゼンテーション、課題レポート等						
教科書・参考図書	坂井 建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院						
履修上の注意	履修者は、初回（平成27年4月14日（火））溝渕教員室に来てください。						

授業コード	16801	授業科目名	看護教育・管理学特論 I			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○坂本雅代（基礎看護学講座 088-880-2532. msakamoto@kochi-u.ac.jp） 山脇京子（臨床看護学講座 088-880-2531. y-kyou@kochi-u.ac.jp） 岡田久子（基礎看護学講座） 088-880-2552. hisako-o@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	坂本・山脇・岡田（水曜日6限目：事前連絡要）						
学生の相談場所	坂本（3階坂本研究室） 山脇（7階山脇研究室） 岡田（3階岡田研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、更によりよい実践へと発展できるように課題意識をもつこと、また、文献の活用やクリティークなど、教育への関心を高めておくこと						
キーワード	看護教育学、看護教育課程、看護継続教育、看護教育方法						
科目の目標（到達目標）	1. 看護教育学とは何か、その概念と、看護学教育制度や看護教育課程、看護教育方法・評価について、歴史や社会背景をふまえて探求すると共に課題が検討できる 2. 看護の質を向上するための、看護継続教育の取り組みについて課題が検討できる						
授業計画	1. 看護教育学の概念（看護教育学とは、看護基礎教育と卒後教育） 2. 看護教育制度（看護教育制度並びにカリキュラムの変遷） 3. 看護教育課程（カリキュラム概念、教育目的・目標） 4. 看護教育課程（カリキュラム構成と内容） 5. 看護学教育授業展開1（学習理論、学習レディネス） 6. 看護学教育授業展開2（授業形態、教育方法） 7. 臨地実習教育と学習（看護学実習の特質と指導、経験型学習理論） 8. 看護学教育評価（教育評価の意義と機能、評価方法） 9. 看護継続教育論1（生涯学習とは、成人学習とは、） 10. 看護継続教育論2（教育FD） 11. 看護継続教育論3（施設内教育プログラム） 12. 看護継続教育論4（施設外教育プログラム） 13. 看護教育方法論（プレゼンテーション） 14. 看護教育方法論（プレゼンテーション） 15. まとめ						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	講義において適宜紹介する						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16803	授業科目名	看護教育・管理学特論Ⅱ			単位数	2
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○森木妙子（基礎看護学講座）（088-880-2558, morikita@kochi-u.ac.jp） 池内和代（基礎看護学講座）（088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp） 下田真梨子（基礎看護学講座）（088-880-2552） 多田邦子（高知大学医学部附属病院）						
オフィスアワー	水・木						
学生の相談場所	森木研究室						
履修希望学生に求めるもの	看護管理に関する文献検索						
キーワード	看護管理者、管理能力、人的資源管理、質保証						
科目の目標（到達目標）	1. 看護管理の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について理解し、基本的責務を担うことができる管理能力を習得できる。 2. 人的資源活用論を現場の人材育成に役立て、リーダーシップの育成と看護サービスの質を保証することができる。 3. 看護管理に関する視野がひろがり、実践現場の課題を探求し、変革するスキルを身につける。						
授業計画	1. 看護管理の実践の場で起こる問題 2. 看護管理の動向、看護管理過程 3. 看護管理論、動機づけ理論 4. 組織変革理論 5. 看護管理者のコンピテンシー 6. 看護管理能力、組織の意思決定 7. キャリア開発（人材育成） 8. 看護の質保証 9. 労務管理と看護人事 10. 看護と経営 11. 業務改善 12. 外部資源の活用、ユニフィケーション 13. 看護師の離職と中堅看護師の離職 14. 組織文化のマネジメント 15. ワークライフバランス						
成績評価方法	クラス討議への参加と貢献度、プレゼンテーション技術、課題レポート						
参考図書	1. 中西睦子：看護サービス管理 第4版、医学書院、2013. 2. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2013. 3. 井部俊子：ナースのための管理指標 MaIN 2、医学書院、2011. 4. 原玲子：成果の見える病棟目標の立て方、日本看護協会出版会、2012. 5. 尾形裕也：看護管理者のための医療経済学、日本看護協会出版会、2009. 6. 小林亜美他：ナースマネジャーのための問題解決術、医学書院2014. 7. 虎の門病院看護部：看護管理者のコンピテンシー・モデル、医学書院、2013. 8. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006. 9. P・ハーシィ 山本成二役：行動科学の展開—人的資源の活用—、生産性出版、2006. 10. Edgar H. Schein 二村敏子訳：キャリア・ダイナミクス、白桃書房、2000.						
履修上の注意							



授業コード	16805	授業科目名	看護教育・管理学演習			単位数	2単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○坂本雅代（基礎看護学講座 088-880-2532. msakamoto@kochi-u.ac.jp） 山脇京子（臨床看護学講座 088-880-2531. y-kyou@kochi-u.ac.jp） 森木妙子（基礎看護学講座）088-880-2558. morikita@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	坂本・山脇・森木（火曜日6限目：事前連絡要）						
学生の相談場所	坂本（3階坂本研究室） 山脇（7階山脇研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、更によりよい実践へと発展できるように、課題意識をもつこと。また、文献の活用や論文クリティークなど、看護教育・管理への関心を高めておくこと。						
キーワード	看護教育 人材育成 看護継続教育 看護管理 研究計画						
科目の目標（到達目標）	1. 看護教育並びに生涯・継続教育に関する課題について、文献レビュー、議論を通して明らかにする 2. 問題解決型の演習により、自己の研究課題を明確にし、研究計画を作成する 3. 看護管理の研究の動向や重要と思われる概念について概観し、看護管理学研究の動向をつかむことができる 4. 看護管理に関する視野が広が地、実践現場の課題を探求し、Rresearch mindの向上が図れる						
授業計画	1. 看護教育の現状分析と課題の探求（1） 2. 看護教育の現状分析と課題の探求（2） 3. 生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求（1） 4. 生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求（2） 5. 看護継続教育の現状分析と課題の探求（1） 6. 看護継続教育の現状分析と課題の探求（2） 7. 看護管理の実践の場で起こる課題と工夫（1） 8. 看護管理の実践の場で起こる課題と工夫（2） 9. 看護管理領域で行われている質的研究とは（1） 10. 看護管理領域で行われている質的研究とは（2） 11. 看護管理領域で行われている量的研究とは（1） 12. 看護管理領域で行われている量的研究とは（2） 13. 研究計画の作成（1） 14. 研究計画の作成（2） 15. 研究計画の作成（3）						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	講義において適宜紹介する						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16807	授業科目名	保健医療情報学演習			単位数	2
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	木・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○栗原 幸男 (基礎看護学講座) (880-2524, kurihary@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前に予約をとること。						
学生の相談場所	保健医療情報学教室						
履修希望学生に求めるもの	各自の研究テーマを多角的に検討すること						
キーワード	保健医療情報学、情報表現、モデル化、数量統計手法、テキストマイニング						
科目の目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療情報の特性を理解する。</li> <li>・看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化) と分析方法を修得する。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 情報学視点からの保健医療研究論</li> <li>3. 保健医療情報の特性</li> <li>4-5. 看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化)</li> <li>6-8. 看護教育・看護管理における研究対象の情報表現 (モデル化) 演習</li> <li>9. 保健医療情報の分析手法</li> <li>10-14. 保健医療情報の分析方法の各自の研究課題への応用演習</li> <li>15. 看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化) と分析方法についての総括</li> </ol>						
成績評価方法	各自の発表と討論への寄与度で評価する。						
教科書・参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah and etc. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.</li> <li>2. 古川俊之監修. 新版医学への統計学. 朝倉書店.</li> <li>3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.</li> <li>4. ハーバートAサイモン著、稲葉元吉・吉原英樹訳. システムの科学. パーソナルメディア.</li> </ol>						
履修上の注意	毎回の授業参加が成績評価になって行くので、出席に努めること。						

授業コード	16815	授業科目名	成人・老人看護学特論 I			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○高橋 永子 (臨床看護学講座) (880-2519, takahase@kochi-u.ac.jp) 溝渕 俊二 (臨床看護学講座) (880-2564, mizoshun@kochi-u.ac.jp) 山脇 京子 (臨床看護学講座) (880-2531, y-kyou@kochi-u.ac.jp) 青木 早苗 (臨床看護学講座) (880-2555, saoki@kochi-u.ac.jp) 林 昌子 (地域看護学講座) (880-2562, m-hayashi@kochi-u.ac.jp) 寺下 憲一郎 (臨床看護学講座) (880-2436, k-terashita@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前連絡により対応						
学生の相談場所	7階共同研究室および担当教員の研究室						
履修希望学生に求めるもの	主体的学習						
キーワード	クリティカルケア・フィジカルアセスメント						
科目の目標 (到達目標)	1. 急性臓器障害や侵襲的治療によって急激な健康破綻をきたした人の特徴を理解し、患者や家族がもつ看護問題および倫理問題を考える。 2. 急激な健康破綻をきたした人の健康アセスメントの手法を学び、エビデンスに基づいた看護実践の基盤を修得する。 3. 急激な健康破綻をきたした人の生命の維持、生理機能の回復、日常性の回復に向け、QOL向上を念頭においた看護を学ぶ。						
授業計画	1. クリティカルケア看護概論 2. クリティカルな場における看護理論 3. クリティカルな患者の病態と特徴 4. クリティカルな患者の病態と特徴 5. フィジカルアセスメント 6. フィジカルアセスメント 7. フィジカルアセスメント 8. 事例検討①オリエンテーション 9. 事例検討②事例提供 10. 事例検討③事例理解 11. 事例検討④事例理解 12. 事例検討⑤discussion 13. 事例検討⑥discussion 14. プレゼンテーション 15. プレゼンテーション						
成績評価方法	授業への参加度・プレゼンテーション・レポートから総合的に評価する						
教科書・参考図書	1. デブラ・J・リン・マッカーレ・ヴィガン/キャレン・K・カールソン編 卯野木健監訳：AACN (米国クリティカルケア看護師協会) クリティカルケア看護マニュアル原著第5版、エンゼビア・ジャパン、2007 2. 山勢博彰：クリティカルケア アドバンス看護実践、南江堂、2013 3. 池松裕子：クリティカルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2009 4. 寺町優子他：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用、 日本看護協会出版会、2010						
履修上の注意	学習効果を高めるために自己学習を行って授業に臨みましょう。						

授業コード	16817	授業科目名	成人・老人看護学特論Ⅱ			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○藤田 晶子 (臨床看護学講座) (880-2565, jm-ak-fu@kochi-u.ac.jp) 大井 美紀 (臨床看護学講座) (880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp) 齋藤 美和 (地域看護学講座) (880-2551, saitomiw@kochi-u.ac.jp) 杉本 加代 (地域看護学講座) (880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	金曜日5限(大井:要予約)*その他の曜日については各担当教員に相談。						
学生の相談場所	6階精神看護学共同研究室他						
履修希望学生に求めるもの	成人・老人看護学演習(2)を履修すること						
キーワード	ヘルスプロモーション 慢性疾患 ケアマネジメント 認知症 ターミナルケア						
科目の目標(到達目標)	1. 地域で生活するあらゆる健康レベルにある人を対象としたヘルスプロモーションの概念を軸として、健康寿命の延長に関する保健行動の支援や包括的なアセスメント方法について学ぶ。 2. 療養者の病態を理解し、アセスメントを行い、QOL向上を目指したケアを行うためのケアマネジメント手法を学ぶ。 3. 介護保険制度、人権擁護の関連法規等の理解を踏まえ、在宅療養者とその家族のQOLを高めるためのケアを学ぶ。						
授業計画	1. 地域生活者看護(概論) 2-3. 地域で生活する人々のヘルスプロモーション活動ⅠⅡ 4-5. 慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援ⅠⅡ 6-7. 在宅におけるケアマネジメントⅠ・Ⅱ 8-9. 介護予防Ⅰ・Ⅱ 10-11. 認知症ケアⅠ・Ⅱ 12-13. 高齢者のターミナルケアⅠ・Ⅱ 14-15. 地域生活者看護における人権擁護・倫理						
成績評価方法	各回の討議内容や、課題レポート等により総合的に評価する						
教科書・参考図書	各回の授業において、適宜紹介する						
履修上の注意							

授業コード	16819	授業科目名	成人・老人看護学演習（1）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○高橋 永子（臨床看護学講座）（880-2519, takahase@kochi-u.ac.jp） 山脇 京子（臨床看護学講座）（880-2531, kayoko-h@kochi-u.ac.jp） 大井 美紀（臨床看護学講座）（880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp） 藤田 晶子（地域看護学講座）（880-2565, jm-ak-fu@kochi-u.ac.jp） 青木 早苗（臨床看護学講座）（880-2555, saoki@kochi-u.ac.jp） 杉本 加代（地域看護学講座）（880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	事前連絡により対応						
学生の相談場所	7階共同研究室および担当教員の研究室						
履修希望学生に求めるもの	主体的な学習と探求心						
キーワード	質の高い看護実践能力						
科目の目標（到達目標）	病院や医療機関、地域・在宅で療養する成人・老人に対して、他職種と連携し看護専門職として継続した質の高い看護実践ができるための知識及び技術を学び、職能の向上に寄与する。						
授業計画	1. 糖尿病看護 2. 精神看護 3. がん看護 4. 集中ケア 5. 医療連携 6. 訪問看護 7. 自己の課題の探求 8. プレゼンテーション・まとめ						
成績評価方法	学習への取り組み方、プレゼンテーション、レポートより総合的に評価する						
教科書・参考図書	適宜提示する						
履修上の注意	学習効果を高めるために自己学習や課題を持って授業に臨みましょう						

授業コード	16819	授業科目名	成人・老人看護学演習(2)			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	木・6,7
担当教員	○印は担当責任者 高橋永子 (臨床看護学講座) (880-2519, takahase@kochi-u.ac.jp) ○藤田晶子 (臨床看護学講座) (880-2565, jm-ak-fu@kochi-u.ac.jp) 大井美紀 (臨床看護学講座) (880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp) 齋藤美和 (地域看護学講座) (880-2551, saitomiw@kochi-u.ac.jp) 高橋美美 (臨床看護学講座) (880-2562, takam@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	金曜日5限(要予約) *相談により調整可能						
学生の相談場所	各領域の共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	成人・老人看護学特論Ⅱを履修すること						
キーワード	研究論文 クリティーク 研究計画書						
科目の目標(到達目標)	成人・老人看護学領域における課題について、先行研究をクリティークすることにより最新の知見を得るとともに、自己の研究課題を明確にし、研究計画を作成する。						
授業計画	1. 成人看護学領域における研究動向(高橋永子) 2. 老人看護学領域における研究動向(藤田晶子) 3. 在宅看護学領域における研究動向(藤田晶子) 4. 公衆衛生看護学領域における研究動向(齋藤美和) 5. 精神看護学領域における研究動向(大井美紀) 6. 研究論文クリティークⅠ(齋藤美和) 7. 研究論文クリティークⅡ(高橋美美) 8. 研究論文クリティークⅢ:プレゼンテーション(齋藤美和・高橋美美) 9. 研究計画書作成1 10. 研究計画書作成2 11. 研究計画書作成3 12. 研究計画書作成4 13. 研究計画書プレゼンテーション 14. 研究計画書プレゼンテーション 15. 研究計画書プレゼンテーション 16. 研究計画書の修正・まとめ						
成績評価方法	各回の討議内容や、課題レポート、プレゼンテーション等により総合的に評価する						
教科書・参考図書	適宜紹介する						
履修上の注意	教室は事前に連絡する						

授業コード	16809	授業科目名	母子看護学特論 I (母性看護)			単位数	2 単位
授業種別	講義	履修開始年次	1 年次	開講時期	第 1 学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代 (基礎看護学, 088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp) 石上悦子 小松輝子 濱田佳代子 吉村澄佳						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	母子とその家族 取り巻く環境 周産期 健康教育 生命倫理						
科目の目標 (到達目標)	<p>【学習目標】          あらゆる世代の母子と家族の健康増進のための課題を探求する。          時代の変化及び日本の歴史的背景・文化、諸理論の理解を基に母性と          その子どもの課題の具体的な支援のあり方を追求する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子とその家族を取り巻く現状を説明できる。</li> <li>2. 母子の健康に関する主要な概念と理論が理解できる。</li> <li>3. 健康教育の実際が理解できる。</li> <li>4. 母子とその家族を取り巻く倫理的課題が理解できる。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月14日 (火) オリエンテーション・母子を取り巻く時代の変化</li> <li>2. 4月21日 (火) 母子を取り巻く現状と対策</li> <li>3. 4月28日 (火) 女性の健康に関する概念と理論</li> <li>4. 5月12日 (火) 女性の健康に関する概念と理論</li> <li>5. 5月19日 (火) 女性の健康に関する概念と理論</li> <li>6. 5月26日 (火) 健康教育の知識・技術の理解 (展開・企画立案・運営・評価)</li> <li>7. 6月 2日 (火) 健康教育の知識・技術の理解 (展開・企画立案・運営・評価)</li> <li>8. 6月 9日 (火) 健康教育の知識・技術の理解 (展開・企画立案・運営・評価)</li> <li>9. 6月16日 (火) 健康教育の知識・技術の理解 (展開・企画立案・運営・評価)</li> <li>10. 6月23日 (火) 現代の子どもの特徴と課題</li> <li>11. 6月30日 (火) 現代の子どもの特徴と課題</li> <li>12. 7月 7日 (火) 母子・周産期における生命倫理の展開と課題</li> <li>13. 7月14日 (火) 母子・周産期における生命倫理の展開と課題</li> <li>14. 7月21日 (火) 母子・周産期における生命倫理の展開と課題</li> <li>15. 7月28日 (火) 母子・周産期における生命倫理の展開と課題</li> </ol> <p>場所: 母性看護学共同研究室</p>						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 課題レポート等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	特になし						

授業コード	16811	授業科目名	母子看護学特論Ⅱ（母性看護）			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・6
担当教員	○印は担当責任者 ○植田 味佐						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	海外の母子・家族情報 健康支援						
科目の目標（到達目標）	<p>【学習目標】 母子の生活におけるQOLの向上を目指した看護の基礎的検討を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外の母子・家族の健康に関する最新情報情報を共有する。</li> <li>2. 母子・家族の健康支援のあり方を追求する。</li> </ol>						
授業計画	<p>1～15. Current topics in pediatric maternal nursing</p> <p>* 第1回目の講義は平成27年4月14日（火）18：10～19：40 （場所：母性共同研究室）とする</p>						
成績評価方法	出席，プレゼンテーション，等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	特になし						



授業コード	16813	授業科目名	母子看護学演習（母性看護1）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学, 088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp） 石上悦子 小松輝子 濱田佳代子 吉村澄佳						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科等5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	対象者への倫理的配慮 能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	健康教育 地域 母子 家族						
科目の目標（到達目標）	【学習目標】 地域社会で生活する母子と家族の健康課題を発見し、支援できる能力を養う。 【到達目標】 1. 地域で生活する母子や家族との触れ合いを通して、個々人又は地域の健康課題が説明できる。 2. 健康教育に関する知識・技術を学び、実践できる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2～15. 健康教育の実際 例) ベビーマッサージ 栄養について（調理も含む）  実践例) 子どもと家族のきずなを育むサポートプログラム アロマ 安田町健康祭り いのちの教室  * 適宜講義日程は提示する						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 課題レポート等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	母子サポートプログラム、安田町健康祭り、助産道場に参加すること						

授業コード	16813	授業科目名	母子看護学演習（母性看護2）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学, 088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp） 石上悦子 小松輝子 濱田佳代子 吉村澄佳						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科等5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	母子看護学 文献検索 クリティーク						
科目の目標（到達目標）	<p>【学習目標】文献検討の方法、まとめ方、活用方法を理解し、自らの修士論文研究計画に繋げる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子を中心とした現状と重要課題を中心に、基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークを通して研究方法の基礎を修練する。</li> <li>2. 先行研究のクリティークを通しての学びを整理し説明する。</li> <li>3. 自己の課題を明確にしながら研究計画書を作成する。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10月2日（金）授業の概要・オリエンテーション</li> <li>2. 10月9日（金）母子看護学領域における論文の動向</li> <li>3. 10月16日（金）母子看護学領域における論文の動向</li> <li>4. 10月23日（金）母子看護学領域における論文の動向</li> <li>5. 10月30日（金）母子看護学領域における論文の動向</li> <li>6. 11月6日（金）個人ワークの進め方</li> <li>7. 11月13日（金）個人ワーク</li> <li>8. 11月20日（金）個人ワーク</li> <li>9. 11月27日（金）個人ワーク</li> <li>10. 12月4日（金）文献検討：プレゼンテーション</li> <li>11. 12月11日（金）文献検討：プレゼンテーション</li> <li>12. 12月18日（金）文献検討：プレゼンテーション</li> <li>13. 12月25日（金）研究計画書：プレゼンテーション・ディスカッション</li> <li>14. 1月8日（金）研究計画書：プレゼンテーション・ディスカッション</li> <li>15. 1月15日（金）研究計画書：プレゼンテーション・ディスカッション</li> </ol> <p>場所：母性看護学共同研究室</p>						
成績評価方法							
教科書・参考図書	学生自身のプレゼンテーションによる内容に基づいて討論し学習を深める。						
履修上の注意	授業内容スケジュールについては漸次修正する。						

授業コード	16810	授業科目名	母子看護学特論Ⅰ（小児看護）			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・6
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里（臨床看護学講座 小児看護学）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日 5時限 事前に予約をしてください						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	日本だけでなく海外での小児看護に関する取り組みを学ぶため、英語力が必要です。全てゼミ形式で実施しますので、文献を精読するだけでなく、自身の考え、気づき、学びをプレゼンテーションする力が必要です。						
キーワード	小児看護 看護倫理、親子の相互作用、高度実践看護						
科目の目標（到達目標）	<p>【目的】 小児医療を取り巻く倫理、小児看護の実践を支える諸理論を学び、健康問題をもつ子どもと家族の看護実践に活用する方法と高度実践看護の特徴と役割を理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの権利条約、小児医療における倫理を検討し、子どもと家族の権利が脅かされやすい特徴と高度看護実践看護師の判断を学び、事例分析ができる</li> <li>2. 子どもの自己概念の発達、ストレス・コーピング、自己効力感、セルフケア、親子の相互作用、親の障がい受容などの諸理論を学び、健康問題をもつ子どもと家族への高度看護実践への活用方法を検討し、事例を通して役割が説明できる</li> <li>3. 高度実践看護の基礎的知識を学び、小児看護における役割を述べることができる</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要説明：小児看護学の知と実践のつながり</li> <li>2-3. 小児看護における倫理 子どもの権利条約、小児医療における倫理的課題 事例を用いた倫理的課題の分析と高度実践看護の役割</li> <li>4-5. 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用（1） 子どもの自己概念の発達の特徴と高度実践看護の役割</li> <li>6-7. 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用（2） 子どものストレス・コーピング、自己効力感、レジリエンスの概念と高度実践看護への活用</li> <li>8-9. 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用（3） 親子の相互作用の特徴と高度実践看護の役割</li> <li>10-11. 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用（4） 親の障がいの受容と高度実践看護の役割</li> <li>12. 高度実践看護の基礎知識と小児看護への活用</li> <li>13-15. 健康問題をもつ子どもと家族のケア開発と高度実践看護への活用 まとめ</li> </ol>						
成績評価方法	ゼミへの出席、学習内容、プレゼンテーションなどによって総合的に評価します						
教科書・参考図書	<p>【参考図書】</p> <p>C Betz, M Hunsberger, S Wright: Family-Centered Nursing Care of Children 2nd. Ed.</p> <p>W Votroubek &amp; A Tabacco: Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd. ED.</p> <p>その他、適宜、紹介します</p>						
履修上の注意	第一回目は、4月14日（火）に行います。受講希望者は、看護学科棟5階 松岡研究室にきてください。詳細の日程は後日提示します。英語文献を中心にゼミを進めます。						

授業コード	16812	授業科目名	母子看護学特論Ⅱ（小児看護）			単位数	2 単位
授業種別	講義	履修開始年次	1 年次	開講時期	第 1 学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里（臨床看護学講座 小児看護学）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日 5時限 事前に予約をしてください						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	日本だけでなく海外での小児看護に関する取り組みを学ぶため、英語力が必要です。全てゼミ形式で実施しますので、文献を精読するだけでなく、自身の考え、気づき、学びをプレゼンテーションする力が必要です。						
キーワード	小児看護 子どもと家族中心のケア、小児緩和ケア、高度実践看護						
科目の目標（到達目標）	<b>【目的】</b> 小児医療を取り巻く現状と課題、それに関連する保健・福祉・教育システムの状況と医療の連携、医療をうけるPatient & Family-Centered Careについて学び、健康問題をもつ子どもと家族にとって有益な社会のあり方及び支援システム、高度実践看護の役割について理解する  <b>【目標】</b> 1. 近年の小児医療の現状として、周産期医療、小児救急医療、小児在宅医療、小児緩和ケア等の特徴と小児看護に求められる役割と課題を学び、事例を通して考察できる 2. Patient & Family-Centered Careの中心概念を学び、医療における子どもと家族中心のケアシステムの実現に向けた高度実践看護の役割について述べるができる 3. 子どもと家族を取り巻く保健・福祉・教育の状況を学び、医療との連携のあり方と高度実践看護の役割について、事例を通して考察できる						
授業計画	1-3. 近年の小児医療の現状と看護の課題（1）～（2） 周産期・新生児医療、小児在宅医療など 4-6. 近年の小児医療の現状と看護の課題（3）～（4） 小児救急医療、虐待、育児支援（親の育児ストレスを含む）など 7-8. 近年の小児医療の現状と看護の課題（5） 小児緩和ケア（苦痛の緩和を含む）など 9-10. 子どもを取り巻く環境と高度実践看護の役割 文献や事例に見る保健・福祉・教育と医療の連携のあり方と看護の役割 11-12. Patient & Family-Centered Careの中心概念の理解と子どもと家族の医療のあり方（1） 文献に基づく検討 13-14. Patient & Family-Centered Careの中心概念の理解と子どもと家族の医療のあり方（2） 事例に基づくアクションプラン（PFCC勉強会、子どものホスピス活動等への参加と振り返り） 15. Patient & Family-Centered Careの視点から見た小児看護の役割まとめ						
成績評価方法	ゼミへの出席、学習内容、プレゼンテーションなどによって総合的に評価し						
教科書・参考図書	<b>【参考図書】</b> C Betz, M Hunsberger, S Wright:Family-Centered Nursing Care of Children 2nd.Ed. W Votroubek & A Tabacco:Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd.ED. A Goldman, R Hain, S Liben: Oxford Textbook of Palliative Care for Children 2nd.Ed. その他、必要に応じて紹介します						
履修上の注意	第一回目は、4月14日（火）に行います。受講希望者は、看護学科棟5階 松岡研究室にきてください。詳細の日程は後日提示します。英語文献を中心にゼミを進めます。						

授業コード	16814	授業科目名	母子看護学演習（小児看護1）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1 年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里（臨床看護学講座 小児看護学）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日 5時限 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	実際に、子どもや家族へのケアに取り組めます。積極的に対象者との関わりをもち、その中から課題を探求する力が求められます。						
キーワード	子どもと家族を中心のケア、子どものホスピス、高度実践看護						
科目の目標 （到達目標）	<b>【目的】</b> 子どもと家族を中心とした保健医療福祉及び看護実践の理念、方法、課題について、医療ニーズが高い疾患や障がいを中心に、演習や文献検討をとして学ぶ。  <b>【目標】</b> 1. 子どもと家族を中心とした保健医療福祉、看護実践について、最新の知識や技術を修得することができる 2. 医療ニーズが高い疾患や障がいの子どもと家族の事例を通して、子どもと家族中心の保健医療福祉及び看護実践上の課題を述べるができる						
授業計画	以下のように進める  1回目：オリエンテーション  2～10回： 1. 患者・家族会、キャンプ、子どものホスピス活動などに参加し、得られた学びを文献検討を交えて統合し、子どもや家族への関わりや看護実践の評価と今後の課題を検討する。  11～15回： 2. 演習での体験をもとに、子どもと家族中心の保健医療福祉と看護に関する実践現場での課題を見だし、明確化する。						
成績評価方法	出席、学習内容、課題レポートによって総合的に評価する。						
教科書・参考図書	必要に応じて提示します						
履修上の注意	課題に関連する文献を主体的に購読してください 第一回目の日程及び詳細日程については、後日提示します。						

授業コード	16814	授業科目名	母子看護学演習（小児看護2）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1 年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・7
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里（臨床看護学講座 小児看護学）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	金曜日 5時限 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	積極的に育児支援や医療ニーズが高い子どもと家族の支援に関する研究会や研修会に参加すること。また、関連する文献を精読し、課題を分析する力が求められます。						
キーワード	育児支援、多職種協働						
科目の目標（到達目標）	<p>【目的】 育児支援を要する家族や発達上に課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族を支える多職種協働における看護の役割を考える。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 育児支援を要する家族や発達上の課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族に必要なケアニーズをアセスメントする手法を獲得できる</li> <li>2. 育児支援を要する家族や発達上の課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族を支えるために必要な多職種協働、連携における看護の役割を考えることができる。</li> </ol>						
授業計画	<p>以下のように進める</p> <p>1回目：オリエンテーション</p> <p>2～10回：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 育児支援を要する家族や発達上の課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族の抱えるニーズについて、勉強会や研修会への継続参加により得られた学びを文献的考察を加えて統合する</li> </ol> <p>11～15回：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 育児支援を要する家族や発達上の課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族へのケアや支援に関連する勉強会や研修会に継続的に参加する中で感じた多職種協働、連携の実践現場での課題と看護の役割について考察する。</li> </ol>						
成績評価方法	出席、学習内容、課題レポートによって総合的に評価します。						
教科書・参考図書	必要に応じて提示します。						
履修上の注意	小児在宅ケアコーディネーター研修会、Patient & Family-Centered Care勉強会、オレンジ高知などの研修会、勉強会、活動に継続的に参加すること 第一回目の日程及び詳細日程については、後日提示します。						

授業科目：助産学特論（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すための Evidence-Based-Midwifery（以下 EBM とする）の方法論について理解する。  
 2. 助産実践の基盤となる概念及び理論を基に助産に関わる現象や対象者の理解を深めるためのアセスメント能力を高め、助産実践への適応を探求する。  
 3. 助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月13日	月	2	助産の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ	池内	大学院ゼミ室1（6階）
2	4月20日	月	2	助産と倫理	池内	
3	4月27日	月	2	助産の歴史 助産師教育の変遷	池内	
4	5月11日	月	2	助産診断・技術学の概要	池内	
5	5月18日	月	2	助産診断過程 I	小松	
6	5月25日	月	2	助産診断過程 II	小松	
7	6月1日	月	2	助産診断過程 III	小松	
8	7月27日	月	2	評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 1・5・6 医学書院 助産師基礎教育テキスト 1 日本看護協会出版会 実践マタニティ診断 第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院	助産学研究入門 WHO 勧告に見る望ましい周産期ケアとその根拠 WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド 助産師の意思決定 EBM 楽しい演習帳 バース・リボーン—よみがえる出産—

授業科目：ウイメンズヘルス論（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 性/生殖に関わる身体の構造と機能を理解する。  
 2. 女性のライスカイクル各期の特徴と健康問題を理解する。  
 3. 性/生殖の健康リスク回避行動の支援に必要な知識を習得する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月13日	月	3	性/生殖に関する解剖と生理 I	医学部	大学院ゼミ室1（6階） 医学部講義棟
2	4月20日	月	3	性/生殖に関する解剖と生理 II	医学部	
3	4月27日	月	3	女性のライフサイクル各期の特徴	濱田	
4	5月11日	月	3	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患	医学部	
5	5月18日	月	3	セクシュアルヘルスケア I（家族計画の概要）	濱田	
6	5月25日	月	3	セクシュアルヘルスケア II （避妊の原理と方法）	濱田	
7	6月1日	月	3	セクシュアルヘルスケア III （個別相談と健康教育）	濱田	
8	7月27日	月	3	試験	濱田	

受胎調節実地指導員講習に読替え

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 2・3・4・5 医学書院 助産師基礎教育テキスト 2・6 日本看護協会 出版会 木村好秀ほか：家族計画指導の実際 医学書院	新・受胎調節指導用テキスト 生涯人間発達学 女性の生涯発達とアイデンティティ 助産師業務要覧（基礎編・実践編）



授業科目：助産診断・技術学基礎（1単位15時間）

- 学習目標：1. 生殖に関する要因として、感染・遺伝・免疫・について学ぶ。  
 2. 周産期の母子に関わる臨床検査（CTG・超音波等）について学ぶ。  
 3. 周産期に関する薬剤について学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月13日	月	4	周産期の主な感染症、予防接種、母子感染	溝渕	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
2	4月20日	月	4	免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 I	吾妻	
3	4月27日	月	4	周産期に関する検査（超音波など） 周産期に関する薬剤（分娩期）	乾	
4	5月11日	月	4	胎児心拍数モニタリングの判読	医学部	
5	5月18日	月	4	免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 II	吾妻	
6	5月25日	月	4	遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 I	吾妻	
7	6月1日	月	4	周産期に関する薬剤（妊娠期・産褥期）	宮村	
8	7月27日	月	4	評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座2・3・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 改訂 第2版 メディカ出版

授業科目：助産診断・技術学特論Ⅰ（1単位 30時間）

学習目標： 1. 妊娠・産褥、新生児の生理的経過とケアを理解する。  
2. 周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1.2	4月15日	水	1.2	妊娠の生理Ⅰ	池内	大学院ゼミ室1（6階）
3.4	4月22日	水	1.2	母子の栄養と運動（歯科保健）	杉本	
5.6	5月13日	水	1.2	妊娠の生理Ⅱ	池内	
7.8	5月20日	水	1.2	妊婦のケア	池内	
9.10	5月27日	水	1.2	正常産褥の生理Ⅰ	石上	
11.12	6月3日	水	1.2	正常産褥の生理Ⅱ	石上	
13.14	6月10日	水	1.2	新生児の生理と異常疾患	松下	
15	7月29日	水	2	評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座3・6・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 病気が見える Vol.10 産科 改訂第3版

授業科目：助産診断・技術学特論Ⅱ（1単位 30時間）

- 学習目標：1. 分娩介助技術の原理と方法を理解する。  
 2. 産婦および 出生直後の新生児のケアを展開できる能力を養う。  
 3. 乳幼児の特性と成長・発達を理解する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1.2	4月15日	水	3.4	分娩の生理Ⅰ	小松	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
3.4	4月22日	水	3.4	分娩の生理Ⅱ（分娩介助法）	小松	
5.6	5月13日	水	3.4	産婦のケアⅠ・Ⅱ	小松	
7.8	5月20日	水	3.4	出生直後の新生児のケア（観察と診断）	小松	
9.10	5月27日	水	3.4	乳幼児の特性と乳幼児健診（予防接種）	吉村	
11.12	6月3日	水	3.4	乳幼児の成長・発達Ⅰ （遊び・事故予防対策）	松岡	
13.14	6月10日	水	3.4	乳幼児の成長・発達Ⅱ（栄養・食事）	松岡	
15	7月29日	水	3	評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座3・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂 実践マタニティ診断第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院	プリンシプル産科婦人科学 第2版 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学 医学書院 平澤 美恵子、村上 睦子：写真で分かる助産技術

授業科目：助産診断・技術学演習（3単位 90時間）

- 学習目標：
1. 周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。
  2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。
  3. EBMの方法論に基きケアを展開できる能力を養う。
  4. 母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。
  5. 母乳哺育についての原理と方法を理解する。
  6. 補完代替療法について理解する。
  7. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。  
(新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断)
  8. 地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。

評価方法：演習評価・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月16日	木	2	妊婦診察技法（外診法）	池内	大学院ゼミ室1（6階）・母性看護学実習室（5階）
2	4月23日	木	2	妊娠診察技法（評価）	池内	
3	4月30日	木	2	妊娠診察技法（骨盤外計測法）	小松	
4	5月7日	木	2	会陰切開・裂傷縫合（2回/内医師1回）	乾	
5	5月14日	木	2	会陰切開・裂傷縫合演習	乾	
6	5月21日	木	2	遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 II	吾妻	
7	5月28日	木	2	超音波診断技法	乾	
8~14	未定			受胎調節実地指導演習 受胎調節実地指導演習（プレゼンテーション）	濱田	
15	6月4日	木	2	褥婦・新生児のケア	石上	
16.17	6月11日	木	2.3	乳房管理（母乳育児の原理と方法） 乳房管理の実際	石上	
18.19	6月18日	木	2	新生児の観察・沐浴	石上	
20	6月25日	木	2	乳腺疾患の見分け方	青木	
21.22	7月2日	木	2.3	母子と補完代替医療 産婦のケア（産痛緩和・東洋医学）	石上	
23~28	未定			過疎地域体験演習	池内	

29	7月9日	木	2	NICU とハイリスク新生児のケア	関
30～33	未定			新生児蘇生法(NCPR) 公認講習会参加 選択：専門コース(Aコース) 一次コース(Bコース)	石上
34～45	9月1日 ～ 9月30日			分娩介助演習・分娩介助演習チェック(9回) フリースタイル分娩(1回) 演習チェック(2回)	小松 池内 石上
評価	未定			各演習評価の総合	小松 池内 石上

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座2・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・4・5・6 日本看護協会出版会 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社 荒木 勤：最新産科学(正常編) 文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学 医学書院 2008 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 改訂2版 メディカ出版 母乳育児支援ガイド 母乳育児支援スタンダード

授業科目：周産期ハイリスク論（1単位 15時間）

学習目標： 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について学ぶ。  
2. 異常発生時の対応及びアセスメントとケアを展開できる能力を養う。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月17日	金	2	妊娠期の異常（DM・TPD・PIH等）	医学部	大学院ゼミ室1（6階）
2 3	4月24日	金	2	分娩期の異常（巨大児・肩甲難産・CPD・遷延分娩・軟産道損傷等） 産褥期の異常（子宮復古不全・血栓塞栓症・妊娠高血圧症候群・産褥期感染症等）	医学部	
4	5月1日	金	2	妊娠期の異常のケア	池内	
5	5月8日	金	2	分娩期の異常のケア	小松	
6	5月15日	金	2	産褥期の異常のケア	石上	
7	5月22日	金	2	新生児の異常のケア	石上	
8	7月31日	金	2	評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会 出版会 荒木 勤：最新産科学（異常編）文光堂	標準産科婦人科学（第3版）医学書院 標準小児科学（第7版）医学書院 プリンシプル産科婦人科学 第2版 メディカル ビュー社

授業科目：周産期医療システム論（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 世界と日本の周産期医療の現状と体制、看護を理解する。  
 2. 周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得する。  
 3. 周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築を学ぶ。  
 4. 地域で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識を習得する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当 教員	場所
1	未定			周産期医療の現状（世界）	石上	大学院ゼミ室1（6階）
2	未定			国際化時代の地域母子保健	石原	
3	未定			母子保健行政と関係法規	奥谷	
4	未定			情報ネットワークの構築（高知の周産期医療）	栗原	
5	未定			周産期と喫煙・国際化社会の看護	石上	
6	未定			周産期と生活環境（環境汚染・電磁波・放射線等）	石上	
7	未定			性暴力を受けた女性の看護（DV含）・子供虐待	石上	
8	未定			評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座1・3・9 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会	助産師業務用覧（基礎編・実践編） 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－

授業科目：母子精神病理学（1単位 15時間）

学習目標： 1. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得する。  
2. 親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月17日	金	3	産前・産後の精神疾患（産前・産後のうつ病、産褥精神病、精神疾患合併妊娠等）	山崎	大学院ゼミ室1（6階）
2	4月24日	金	3	女性のライフサイクルとメンタルヘルス（摂食障害、パニック障害、PMS、DV等）	山崎	
3.4	5月1日	金	3.4	不妊症・不育症治療および治療後の心理的問題 家族を含めた支援と他機関との連携 GW「出生前診断を考える妊婦の意思決定過程を支援」 プレゼンテーション	関	
5	5月8日	金	3	親子関係をめぐる問題（母子・父子関係）	澤田	
6	5月15日	金	3	親子関係をめぐる問題（児童虐待）	澤田	
7	5月22日	金	3	ペリネイタルロスとグリーフケア（流産・死産の悲嘆反応、子供の喪失を含む）	小松	
8	7月31日	金	3	評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座4・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会 出版会 新道 幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院	親と子のきずな 親と子のきずなはどうつくられるか 母子関係の理論 母と子のアタッチメントー心の安全基地ー 母子と家族への援助 母子臨床と世代間伝達 赤ちゃんの死を前にして



授業科目：コンサルテーション論（1単位15時間）

- 学習目標： 1. 健康問題の解決や健康課題の達成に必要な知識を学ぶ。  
 2. 指導者としてカウンセリングやコーチングなどのコミュニケーションスキルを学ぶ。  
 3. 助産師の行う指導について、学ぶ。  
 4. 妊娠中から産後までの健康教育について、学ぶ。

評価方法：プレゼンテーション・提出物・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月17日	金	4	カウンセリングとコーチング	石上	大学院ゼミ室1（6階）および 母性看護学共同研究室（5階）
2	4月24日	金	4	カウンセリングとコーチング	石上	
3	5月1日	金	5	カウンセリングとコーチング	石上	
4	5月8日	金	4	助産師の行う相談・教育・援助の基本	石上	
5	5月15日	金	4	健康教育の実際（教育方法）	石上	
6	5月22日	金	4	指導の実際（集団指導・個別指導）	石上	
7	5月29日	金	4	指導の実際（出生前教育と育児指導）	石上	
8	7月31日	金	4	評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座5 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会	カウンセリングとコンサルテーション 辻村英夫 産む力の咲かせ方 出産準備クラスにおけるエンパワーメント

授業科目：地域母子保健診断学（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 日本の周産期医療における現状と課題について知る。  
 2. 他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。  
 3. 母子保健に関する助産師の役割について学び、助産道場につなげる。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	未定			産期医療における助産師活動 (院内助産・助産師外来)	石上	大学院ゼミ室1 (6階)
2	未定			周産期医療体制・母子保健制度と母子保健施策 (日本の産科・新生児の現状、高知の現状)	福永	
3	未定			母子保健活動の展開	大井	
4	未定			地域医療・プライマリケア 総論	阿波谷	
5	未定			地域医療と公的病院	阿波谷	
6.7	未定			GW：地域における助産師の役割（助産道場） ※グループでテーマを決める	池内	
8	未定			評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座4・9・10 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・3 日本看護協会出版会 助産師業務用覧（基礎編・実践編） 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会	助産外来・院内助産所 計画・開設・運営マニュアル 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－

授業科目：助産管理学（2単位 30時間）

- 学習目標： 1. 助産業務管理のための原理と方法について学び、EBMに基づく女性の意思を尊重した支援の在り方を追及する。  
 2. プロポーザルの知識を深め、組織改革、政策提案できる能力を養う。  
 3. 周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割を追求する。  
 4. 災害時の助産管理を学ぶ。  
 5. 周産期における助産師の役割が熟考でき、卒業後の【周産期医療人材育成プログラム】への参加意欲を高める。  
 6. 管理実習（対象：医療機関、助産所）  
 助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。

評価方法：プレゼンテーション・ディスカッション参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	未定			看護管理の機能と方法	高橋	大学院ゼミ室1（6階）
2	未定			組織行動のマネジメント（1）	高橋	
3	未定			組織行動のマネジメント（2）	高橋	
4,5	未定			助産管理の実際（産科診療所の管理）	岡本	
6	未定			助産管理と関係法規	池内	
7	未定			周産期の医療事故とリスクマネジメント（1）	池内	
8	未定			周産期の医療事故とリスクマネジメント（2）	池内	
9	未定			災害時の助産管理（1）	池内	
10	未定			災害時の助産管理（2）	池内	
11	未定			病院における助産業務管理	公文	
12	未定			助産所管理の実際（助産所見学）	眞鍋	
~15				助産所における助産業務管理 （助産サービスの評価・診療報酬）	池内	
15	未定			プレゼンテーション	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座10 医学書院 助産師基礎教育テキスト3 日本看護協会出版会 助産師業務要覧（基礎編・実践編）日本看護協会出版会	臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－